

A-6 訪問看護・リハビリからみた地域連携の課題と提案

永生会訪問看護ステーションいるか

理学療法士 星本諭 ほしもとさとし

【はじめに】患者・利用者様の在宅生活を支援している訪問看護・リハビリからみた地域連携の課題と提案を質問紙にて調査した。

【対象と方法】対象は、訪問看護ステーション（St）の看護師 26 名、理学・作業・言語聴覚士 18 名とした。方法は無記名自記式質問紙票を用いた。質問紙では、回答者の基本属性「性別」「職種」「訪問経験年数」「資格取得後経験年数」と、地域連携で困った経験や症例及び提案を「保健種別」「主疾患」「地域連携で困ることや提案」として自由記載で求めた。次に地域連携の課題と提案を集計した。

【結果と考察】回答は、看護師 5 名（女性 5 名／平均訪問年数 5.8 年／平均資格取得後年数 24.6 年）、理学・作業・言語聴覚士 12 名（男性 6 名・女性 6 名／4.7 年／10.2 年）から得た。有効回答数は 39（複数回答あり）で、医療保険が 21、介護保険は 9 と、医療保険の方が多かった。医療保険の主疾患は、ALS や SCD 等の神経難病、癌末期、脳血管障害（若年）、頭部外傷等だった。

地域連携に対する課題（図 1）は「医療・介護サービスの方向性」13、「サービス不足」11、「情報不足・伝達不足」10、「衛生材料や医療・リハ機器の確保困難」3、「その他」2 の順だった。「医療・介護サービスの方向性」は、サービスの目的や調整をする人がいないことや、St にコーディネーターもまかされてしまうこと等が挙げられた。「サービス不足」は、介護保険外のサービス（デイ、ショートステイ、バックベッド）が少なく困る、緊急時に搬送を断られた等が聞かれた。「情報・伝達不足」は、8 割が事業所間に関する回答で St と他施設や、他施設間の伝達に関するものだった。事業所外 2 割は他施設の情報をも望む意見だった。医療保険の課題が多かったことから、介護保険でのケアマネジャーのサービス調整や伝達の役割を認めているものと考えられる。

以上の課題から、St から望むこと（図 2）として、「コーディネーター」13、「往診医」4、「障害者のデイ・ショートステイ」3、「バックベッド」2、「リハビリ機器・福祉用具」2、「その他」7 が挙げられた。

【結論】訪問看護・リハビリから、地域連携において特に介護保険外のコーディネーターや往診医、及びサービスの充足を期待していることが示唆される。

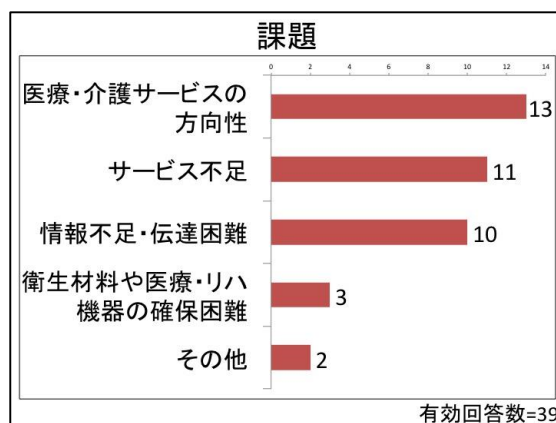


図 1

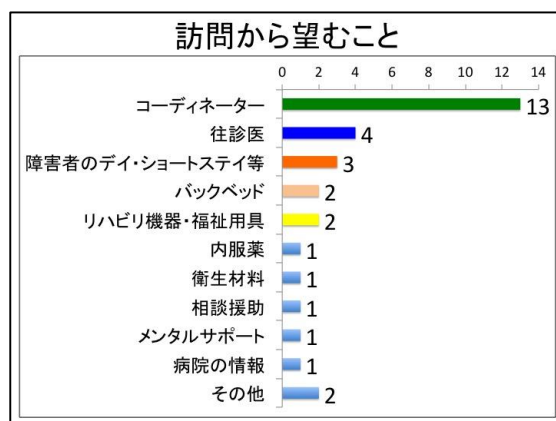


図 2